



市議会ホームページ



市議会 Facebook



市議会 YouTube

第20期

新たな市議会始動！



(上段左から) 亀山 直哉、室井 幸司、小林 勝、足立 淑絵、柏 元三、山下 登、木平 秀喜、堀内 篤、萱原 信英

(下段左から) 森脇 和徳、幸松 孝太郎、三原 淳子、富田 真由美 (監査委員)、永岡 禎 (議長)、坂本 直司 (副議長)

福田 博行、細矢 一宏、常俊 朋子

第76代 名張市議会議長

永岡 禎

第79代 名張市議会副議長

坂本 直司

【永岡議長よりごあいさつ】 4月の役員改選により名張市議会議長に就任いたしました永岡禎です。

市民の皆さんには日頃より名張市議会の活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

人口減少や少子高齢化の進展などに伴い、本市の行財政運営を取り巻く環境は今後も厳しい状況が続くと見込まれています。その中にあっても、市民の皆さんが強く望まれている中学校給食の実施と分娩施設の確保は待ったなしの事案であり、議会としてもスピード感を持って議論、判断していきます。

また、地方独立行政法人名張市立病院の経営健全化と安定した病院運営についても、議会として、しっかりと中期計画の進捗を確認し、市民の命を守る病院として必要な支援を行うよう行政に働きかけていきます。

最後に、今般の選挙で市民の皆さんから負託を受けた議会がしっかりと機能し、信頼される議会であり続けるよう坂本副議長と共に職責を果たしてまいります。



Q 産科支援と助産所開設を

伊賀地域で唯一分娩を取り扱う民間病院への応援協力が、周産期医療の問題を解決する現実的な方法ではないか。また、当該病院に嘱託医療機関となってもらい、市内に分娩可能な助産所を開設してはどうか。

A 助産所開設は今後の課題

地域で唯一の分娩取扱施設への支援は非常に重要である。周産期医療体制を伊賀地域で維持し、市民が安心して出産できるよう伊賀市と協定を締結し、支援を行っている。なお、助産所の開設については、医療機関の方針を踏まえる必要があり、今後の課題として研究したい。



Q アピアランスケア^{※2}の助成を

がん治療による外見の変化は、患者の心身や社会生活に大きな影響を及ぼす。アピアランスケアに必要なウィッグや乳房補整具などの購入に伴う経済的負担の軽減と地域で支える環境づくりのため、本市でも助成を行う考えはあるか

A 制度導入を検討する

がん治療への意欲や生きる実感を持つための支援と認識している。外見の変化による不安や生活上の支障を和らげ、治療を続けながら安心して暮らせる環境づくりにつなげるため、他自治体の事例を参考に助成制度の導入を検討する。



Q 分娩施設の確保を

市民は市内での分娩を望んでいる。医師の確保や方針の決定、開院はいつになるのか。様々な課題が山積しているが、市長の考えを問う。

A 年内に方向性を示す

「産み育てるにやさしいまち」を掲げる本市にとって産科がないことは大きなダメージである。開院に向けて強い思いで取り組むが、一方で財源・人材・バックアップ体制の課題は大きく、民間法人とも協議中であるが、合意には至っていない。はっきりとした時期は言えないが、年内には責任をもって市民に方向性を示さなければならないと考える。



Q 新しいごみ処理施設の建設

令和16年に現在のごみ処理施設が操業期限を迎えるため、近隣自治体との広域処理が検討されているが、市内への産業廃棄物処理施設の誘致も進められている。一般廃棄物の3倍の規模となり、環境悪化を懸念する。住民へ十分な説明をし、理解を得なければならない。

A 公民連携方式で進める

一般廃棄物と同等の成分に限定した産業廃棄物を混焼するものであり、公民連携手法により進める。地域住民への説明を行うとともに、地域役員との確認を経て事業者を公募し、環境負荷など詳細な協議を進める。



Q ごみ処理広域化の方針は

2市1村で進める広域ごみ処理施設を地域エネルギーセンター（仮称）と位置付けているが、その運営で公民連携の手法を採用した理由とエネルギー活用による地域への効果を問う。

A 公民連携で柔軟な運営へ

将来的な人口減少に伴うごみ排出量の減少を見据え、柔軟な運営が可能な公民連携の手法を選択した。廃棄物の資源化および発電・熱利用を行う資源循環型施設であり、二酸化炭素削減や災害対応に加え、雇用創出やエネルギーの活用によって、新たな価値を創出する地域振興拠点として位置付ける。



Q 中山間地域の活性化を

中山間地域の活性化には、今までの縦割り組織では限界がある。部署の垣根を越えて連携し、地域の再生と活性化を図るチームを組むことを望む。

A 地域のキーマン育成が必要

中山間地域は、人口が減り耕作放棄地が増え森林が荒れていく状況にあるが、魅力が生み出されるエリアである。ふるさと住民登録制度^{※1}などの施策を推進する材料として活用することができるのではないかと考える。キーポイントとして、地道なプロモーションと地域における活動のキーマンをつくっていくことが必要である。



Q 学校給食の広域化を

伊賀市の給食センターには700食分の余剰能力があり、設備と人材を投入すればさらに700食を作ることができるかと認識している。学校給食を広域で実施し、建設しようとする給食センターの規模を縮小することで公債費を抑制するよう強く要望する。

A 本市でセンター建設実施

給食センター建設は大きな投資だが、ふるさと応援基金から約10億円を充当し、公債費の抑制を図る。さらに、施設完成後に小学校給食を順次集約することで、学校給食に係る全体の事業費縮減を目指す。



Q 災害対応の検証を仕組みに

台風第6号への対応を通じて見えてきた学校対応や職員配置などの課題は、個別の問題としてではなく、市全体の危機管理として一体的に捉えるべきだ。今回の検証結果をどのようにに制度として整理していくのか、市の見解を問う。

A 防災体制の強化に取り組む

教育現場をはじめとする関係部局との連携を、より組織的かつ包括的なものとする。今回の検証を踏まえ、現場の視点や地域の実情、防災の知見を掛け合わせて、市民、地域、行政が一体となった「誰一人取り残さない」防災体制の強化に取り組む。



Q 幹線道路の整備推進を

コンパクトシティの推進や観光・医療・防災・ごみ処理などの分野において、幹線道路の整備は重要である。関係人口や交流人口の創出につながる幹線道路、道路インフラ事業の重要性について市の考えを問う。

A 国や県への要望活動を実施

国道368号は名阪国道への重要なアクセス道路であり、国道165号については恒常的な渋滞緩和と観光誘客に必要な道路と考えている。加盟する各種同盟会や協議会において、国や県に対し、予算確保と事業推進に関する要望活動を実施している。



Q 孫休暇導入と情報発信を

共働き世帯の増加や核家族化を背景に、祖父母による子育ての重要性が増している。多世代で子育てを支える観点から、孫休暇の導入や子育てに役立つ情報発信について市の考えを問う。

A 子育て支援の取組を推進

孫休暇を導入している桑名市の取組を参考とし、制度導入に向けて十分な検討を進める。ガイドブック作成についても有意義な取組と認識しており、ホームページを通じ、食物アレルギーや離乳食、寝かせ方など、祖父母世代に向けた子育て情報の提供に努める。



Q 給食センターの将来的活用

多額の公費を投じて整備する給食センターについて、将来の児童生徒数減少を見据えた施設活用の考えを問う。施設完成後ではなく、建設段階から将来の活用方法や運営の在り方を想定し、市民にとって価値ある施設としておくことも重要ではないか。

A 配食や災害時の活用を検討

給食センターは令和26年度までは余剰調理能力が生じない見込みである。将来的に余力が発生した場合は、高齢者向け配食サービスや災害時の炊き出し拠点としての活用なども含め、運営事業者と協議しながら検討していく。



Q AIを活用した公共交通を

人件費高騰や運転手不足により既存の公共交通の維持が困難な中、利便性の高いAIを活用したオンデマンド交通への段階的な転換に向けての実証実験と全市的な導入の検討を行う考えはあるか。

A 一つの手法として検討

市民の移動手段の確保は重要課題である。三重県のモデル事業としてタクシー事業者と連携した公共ライドシェアの実証運行を予定している。検証結果を踏まえ、AIなどのシステムについても今後のコミュニティ交通の改善・再編に当たっての一つの手法として、しっかり検討していく。

※1 / ふるさと住民登録制度…市外から地域と関わりを持つ人を登録し、交流を通じて地域経済の活性化や担い手の確保を図る制度

※2 / アピアランスケア…がん治療による外見の変化に伴う悩みを支えるケアのこと

委員会のご紹介

総務企画委員会



(後列左から) 堀内 篤、柏 元三
富田 真由美、永岡 禎
(前列左から) 委員長 森脇 和徳
副委員長 小林 勝

【所管事務調査】

防災・減災

教育民生委員会



(後列左から) 亀山 直哉、木平 秀喜
幸松 孝太郎、室井 幸司
(前列左から) 委員長 常俊 朋子
副委員長 細矢 一宏

【所管事務調査】

図書館の充実、保育環境の充実

産業建設委員会



(後列左から) 萱原 信英、福田 博行
三原 淳子、坂本 直司
(前列左から) 委員長 足立 淑絵
副委員長 山下 登

【所管事務調査】

農業振興、地域公共交通
中小企業支援

【議会運営委員会】【議会改革特別委員会】

福田 博行 (委員長)、細矢 一宏 (副委員長)、木平 秀喜、足立 淑絵、森脇 和徳、富田 真由美、常俊 朋子

【行財政改革調査特別委員会】

細矢 一宏 (委員長)、森脇 和徳 (副委員長)、坂本 直司、足立 淑絵、柏 元三、三原 淳子

【議会広報特別委員会】

三原 淳子 (委員長)、柏 元三 (副委員長)、亀山 直哉、萱原 信英、堀内 篤、福田 博行

9月定例議会日程 (予定)

9月4日金 議案上程	16日水 決算質疑
10日金 一般質問	17日木 決算特別委員会
11日金 一般質問	18日金 総務企画委員会
14日月 一般質問	24日木 教育民生委員会
15日火 補正予算質疑	25日金 産業建設委員会
	30日水 採決

開議時間は午前10時からです。全ての本会議(委員会を除く)がケーブルテレビで中継されます。YouTubeでは上記の会議全てを配信する予定であり、過去の会議も視聴することができます。

【次回の議場コンサート】

申込不要

演歌歌手

石川 正昭 さん

日時 9月10日 日
9:10～9:40

場所 議会棟3階 傍聴席



今号のイラストは桔梗が丘中学校美術部の皆さんが描いてくれました！

将来を担う若者にも議会に関心を持ってもらうため、市内中学生の皆さんに「市議会だより」のイラストを作成していただいています。次回もお楽しみに！

生徒さんの声

今回、議会だよりのイラスト制作に参加できてとても嬉しいです！ありがとうございます！

みんなで協力して一生懸命描いたので、多くの人に見ていただき、少しでも興味を持ってもらえたら嬉しいです！

桔梗が丘中学校 美術部



今号は桔梗が丘中学校美術部の皆さんが担当してくれました！

一般質問で取り上げたテーマをお知らせ！

令和11年9月開始目標に延期された中学校給食のほか、近隣市町村と協議してきたごみ処理広域化の進捗状況、固定資産税の税率見直しや財源確保策などが取り上げられました。



一般質問の一覧はこちら

【その他】

- ・介護報酬の臨時改定
- ・中山間地域の活性化など



【出産・子育て・保育】

- ・子育て支援など



【行財政】

- ・財源確保と市民負担など

【教育・文化・スポーツ】

- ・中学校給食 など



【環境・インフラ】

- ・ごみ処理広域化など



6月定例議会 議決結果

議案の一部を掲載

公契約条例の制定

本条例は、市が発注する公共工事や業務委託において、市や受注者の責任などを定めることによって適正な労働条件を確保し、公共工事および公共サービスの質を向上させ、担い手の確保や地域経済の活性化を図るものです。市議会ではこれまでに、公契約条例に関する勉強会を立ち上げ、関係団体と懇談したほか、一般質問において条例の制定について検討するよう求めてきました。議案は全会一致で可決されました。

令和8年度 一般会計補正予算

3月定例議会で可決した令和8年度当初予算は、4月に市長選挙を控えていたため、義務的な経費や継続事業を柱とした「骨格予算」となっていました。今回の補正予算は、人口減少社会に対応するまちづくりを進めるための政策的経費や普通建設事業を中心とした予算の肉付けとなります。一般会計における補正予算は11億8,885万8千円の増額で、補正後の予算額は317億8,185万8千円となり、賛成多数で可決されました。

議決結果

○ 賛成
× 反対
欠 欠席

無会派			起働		新希		自由クラブ			公明党				清風クラブ				
三原	堀内	足立	亀山	森脇	木平	山下	柏	萱原	室井	富田	細矢	小林	坂本	常俊	幸松	福田		
×	○	○	○	欠	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

※永岡議長は採決に加わりません。

その他の議決結果はホームページに掲載しています。また、議決結果は名張市公式LINEでもお知らせします。ぜひ友だち登録し、受信設定から「議会」の情報を受信するよう設定してください。議決結果のほか、会議予定や一般質問の通告一覧などを発信する予定です。



議決結果 (HP)



市公式 LINE



採決日 動画 (YouTube)